

一般質問

11名通告順

広域行政の一元化を実現するには！

茂田信三議員

○消防行政、ゴミ行政、給食の統合について。

質問 合併して今春1月で丸四年経過するが合併の効果がでていないと思う。まず一点目、統合に関して一番難しいと思われる消防行政。当市と同じような人口、面積の市ではどのような解決策を取っているか。それと旧石下消防団と旧水海道消防団が統合されない理由、進捗状況を聞きたい。

二点目ゴミ行政。常総広域と下妻広域の二つに参加しているが、常総広域で新しく焼却炉を建設するが当市負担分はどのくらいか。一本化へ向けての考えと時期を聞きたい。三点目運営組織が異税なる給食行政では同じ金を納めていて食材の献立や値段が違うのは不自然ではないか。市民のために安心安全、また税金の有効な使い方というのが、市長の最も大切な責務だと思

うが、どうか。(再質問) 難しいのは解って聞いている。ただ難しいからといって手をつけないのは行政の怠慢ではないか。

答弁(企画総務部長) ①広域

消防については県の「消防広域化計画」に先んじて石下地区を常総広域消防へ編入し広域消防の一元化を進めている。消防団については、指揮系統が分かれていることから早期の統一を図りたい。

(市民生活部長) ②クリンポート・きぬは施設の処理能力に余裕があることは事実です。広域事務の一元化特にゴミ処理の場合には施設整備に要する費用が高額なため設置時期に合わせて実施しないと合わないことから常総環境センターの新築施設が稼動する平成24年度は良い機会といえる。双方の広域行政機構の調整

もからむことから両広域事務所の構成市町の理解を得ながら早期に一元化ができるように努めたい。(教育部長) ③学校給食の一元化を図るためには常

高齢者の健康を目指して

中村博美議員

○地域包括支援センターについて

質問 地域包括支援センターは介護を必要としない方の中でも生活機能が低下している虚弱な方々と要支援1、2の方々が対象となるが、そのサービス内容について尋ねる。

①介護予防事業「はつらつ教室」と介護予防普及啓発事業「いきいき教室」「シルバー教室」「福寿健康相談」の内容、参加者数また参加者の反響はどのようなものか。

②地域介護予防活動支援事業の介護予防推進制度の創設による「常総市介護予防推進員」の担う役割について尋ねる。③当市独自の

総・下妻学校給食組合からの脱退または解散が前提になる。下妻千代川地区の給食の確保(受託方式の検討)、施設整備、財産処分、建設時の起債の未償還の取り扱い、職員の処遇等の課題を下妻市と解決に向け協議し、早期に一元化できるように進めたい。

は水海道地区、石下地区それぞれに月2回ずつ実施。6月からこれまでに約130人参加。「シルバー健康教室」介護予防の講和を行うもので10月まで33クラブ延べ258人が参加。参加者の反響は好評を博している。②介護予防推進員制度は「あったか常総プラン」に位置づけられたもので、研修会には173人の申し込みがあり、受講終了者には認定書を発行し推進員として地域の介護予防推進に中心的取り組みを行う。③運動普及推進員について現段階では育成計画がないので、研究課題とした。(再答弁) ①人数は少ないと思うので多くなる方策を考えたい。②全講習会に出席する必要はない。③シルバーリハビリ運動指導士や体育指導員も含めて活用できないか、研究課題としたい。

答弁(保健福祉部長) ①「はつらつ教室」は平成21年度207人が特定高齢者と認定され、希望者74人にこの事業を実施。「いきいき教室」は市内12地区の公民館で11月まで延べ1265人が参加。「福寿健康相談」

その他の質問事項

○シルバーリハビリ体操指導者の現状を尋ねる。

